

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 平成29年度第3回会議
開催日時	平成29年11月16日（木）午前10時から12時
開催場所	保谷東分庁舎 地下会議室
出席者	委員：鈴木委員、高橋委員、石井委員、多々良委員、近辻委員 事務局：岡本課長、掛谷課長補佐、阿久津主事、亀田主事、齊藤主事、沼上文化財保護専門員
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 西東京市文化財保存・活用計画の取組状況について (2) 天神社の総合調査について 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 下野谷遺跡の保存・活用について (2) 文化財事業実施報告 <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財 ・その他の文化財事業等 4 その他 5 閉会
会議資料の名称	資料1 西東京市文化財保存・活用計画 施策の取組状況 資料2 天神社の総合調査について 資料3 下野谷遺跡の保存・活用について 資料4 埋蔵文化財調査一覧 資料5 文化財事業一覧
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>1. 開会</p> <p>○鈴木会長：ただいまより平成29年度第3回定例会を始める。</p> <p>○事務局：配布資料・出欠の確認。前回会議録について訂正等ある場合は11月30日までに連絡願いたい。</p> <p>2. 協議事項</p> <p>（1）西東京市文化財保存・活用計画の取組状況について</p> <p>○鈴木会長：事務局から説明をお願いします。</p>	

- 事務局：（資料1に沿って説明）
前回会議で報告した全庁的な取組み状況に対する委員意見の概要を資料1にまとめた。今回の会議で確認し、審議会の意見としてまとめたい。
- 多々良委員：以前、出土品の一部を早稲田大学が管理していると聞いた。そのあたりはどのようなになっているのか。
- 事務局：早稲田大学で、大学が発掘した6次調査の資料と下野谷遺跡対岸の出土品を調査研究・管理いただいているものがある。
- 鈴木会長：他に何かあるか。
- 近辻委員：取り組む課題や事業が多く、目的が達成しきれない印象がある。
- 石井委員：資料で取組状況の全体像は見えるが、平面的である。重点の課題を何にするのか、期間は短期か長期かなども含めて考えると、取り組むところが可視化される。市職員の研修、学校に新たにきた先生への研修などは、すぐに取り組むことができると思う。先生が市の文化財を認識すれば、子どもたちへも波及する。郷土資料室の利用も増える気がする。
- 事務局：市新任職員には、下野谷現地に案内し研修をしている。毎年、教員の社会科学研究会で研修を組んでいるほか、校長会において、VR縄文ミュージアムや郷土資料室の利用などをとりあげている。
- 多々良委員：多摩六都科学館との連携は重要である。展示だけでなく、当時の星座を映写するなど、当時と関わってくるようなものがあると思う。
- 事務局：市としても、多摩六都科学館との連携は重要であると考えている。これまでも展示、圧痕の研究などを実施しており、今年は縄文の森の秋まつりにも参加いただいた。多摩六都科学館は近隣5市と共同で運営しているため、広く周知できる。
また、現在、多摩六都科学館のプラネタリウムにおいて、下野谷遺跡のVR映像と星空を組み合わせた内容のプログラムを投影している。
- 鈴木会長：これだけの事業を進めるのは大変ではないか、という意見があった。何が喫緊の課題かを把握することは重要である。博物館ができれば、多くの課題が解決されていくだろう。
- 高橋委員：博物館等の施設では、来館者数が評価基準のひとつとなる。この他に重要なこととしては、どれくらいの人に関心を持ってくれるのか、ということがある。関心を持つ人は日本に限らず海外にもいると考えられ、現地の施設と情報発信との両方を取り組んでいく必要がある。
- 近辻委員：情報発信は施設よりもコストがかからないので、積極的に行うべきである。ただし、気をつけなければならないことは、質が高くないと1回見たら飽きられてしまうことである。また、最低限、日本語と英語とが必要であろう。
- 高橋委員：著名な遺跡でも、十分な国際発信はできていない。例えば、農耕社会について世界的な視点でデータを集めて、そこからの位置付け等を改めて発信するようなことはやっていない。それでも、年間70万人が来る遺跡があり、観光地としての意味はあるだろうが、社会教育・学校教育に還元できる学術的な部分も必要である。
- 鈴木会長：下野谷遺跡は都心から近い場所にあるので、外国人も来やすい立地であると思うが、どのように世界へ発信していくのがよいだろうか。
- 石井委員：東北の縄文遺跡の世界遺産登録がなかなか進まないが、進めば世界的な動

きがでるのだろう。国際化は非常に意義のある課題であるし、文化財は大きな資源となる。2020年の東京オリンピックを視野に入れながら、継続的な取り組みが必要である。

- 鈴木会長：まちづくりに役立たせるためには、他課との連携が必要であるが、現状はどうか。
- 事務局：活用の部分では、主にみどり公園課や産業振興課と連携している。平成27年度に策定した文化財保存活用計画の各課連携の運用のほか、市の総合戦略にも、下野谷遺跡を活用したまちづくり・魅力づくりが上げられており、全庁的にも周知されている。
- 近辻委員：下野谷遺跡保存活用計画策定懇談会で、都市計画課長から東伏見駅周辺のまちづくり懇談会における遺跡関連の意見について報告があった。このような、連携した取組みを深めてほしい。
- 鈴木会長：事務局でも意見をふまえて進めてほしい。

(2) 天神社の総合調査について

- 鈴木会長：事務局から説明をお願いします。
- 事務局：(資料2に沿って説明)
天神社をめぐる関連文化財群とストーリー(例)として、様々な素材からの方向性の例を示している。また、調査の進め方のイメージ(案)として、役割分担や想定されるスケジュールを示している。
実施に当たっては、今後、委員に調査・研究等で協力をお願いすることを想定している。実施に向けて、想定される調査項目の中からある程度審議会委員でお願いできる方など、意見をいただきたい。
- 鈴木会長：天神社の歴史的建造物一覧(仮)を作成した。建築調査の場合は、このような形で写真・図面と解説、それと関連する文書類、このあたりで報告書をつくる。建築年代不明のものを一連の中にどう組み込むか、仮に作成した。引き続き、建築関係については調査員として関わっていきたいと考えている。各委員それぞれの分野から関わっていただければと思う。
メインの調査は来年の8月までということか。
- 事務局：来年の8月までに、個々の文化財調査結果をある程度まとめ、次のストーリー、関連付けに進みたいと考えている。
- 鈴木会長：委員の日程を踏まえて考えていただければと思う。
- 近辻委員：資料2における調査体制と想定される調査項目・内容との関係がよくわからない。委員の調査の分担を決めた方がよいと思う。私は文書を担当する。金石文については廣瀬委員に協力を仰いでどうか。
- 事務局：想定される調査項目・内容については、これで決定ではない。総合調査を進めていく上で、以前に予備調査をした中からある程度必要だと思う項目を挙げている。
- 近辻委員：この項目に捉われないのであれば、文書と金石文とは分けてほしい。
- 石井委員：下保谷と関わりが深いので、民俗資料などの部分は協力できる。
- 事務局：少しずつ検討してまいりたいため、4名の委員の皆様には協力をお願いしたい。
- 鈴木会長：文化的景観としては、どのような分野があるのだろうか。
- 事務局：要素としていれているが、現時点では鎮守の森としてのイメージがある。

調査した結果が集まって、こういったものが出てくると思う。

- 近辻委員：将来的に定着すれば、ボランティアの育成につながるかもしれない。調査協力員にはある程度報償も必要だと考える。
- 鈴木会長：制度として整っていくと、文化財を市民に周知していく役割にもなっていくだろう。そういう人たちを発掘する、あるいは育成する、そんなことも考えていきたいと思う。
- 事務局：今回の取組みは試行的なものであり、また、ご相談させていただきたい。
- 石井委員：分野のバランスをとって、うまく運営できる体制づくりが重要だろうと思う。それぞれの分野の専門の方に入ってもらい、調査協力員を依頼する場合は、況を理解してもらった上でお願いするなど、慎重に進めた方がいい。

3. 報告事項

(1) 下野谷遺跡の保存・活用について

- 鈴木会長：事務局から説明をお願いします。
- 事務局：（資料3に沿って説明）
下野谷遺跡保存活用計画の策定に当たり、1月にはパブリックコメントも予定している。次回会議で冊子の形で報告する予定である。
- 鈴木会長：何か意見はあるか。
- 多々良委員：遺跡の展示を見ると、どうしても遺跡だけで考えられているように感じる。例えば、その時代の世界の動きなどの提示はほとんどない。子どもたちにとっては、その時代にどういう意味があるのかなどがわかりづらい。今後、他との関わりなども紹介していただきたい。
- 高橋委員：日本史と世界史とは科目として分かれているが、相対比較の目を持つことは非常に大事なことだと思う。最近では比較する対象が、エジプトや中国だけでなく、東南アジアやアメリカなどと増えている。同時代を比較することで、横とのつながりが見えてくる。
- 多々良委員：そういったことから共通性、あるいは個別性が見えてきて、子どもたちの視点も変わってくると思う。
- 鈴木会長：情報化社会になり、情報がすぐ手に入る時代である。新しい展示方法も含めて検討する余地がある。
下野谷遺跡保存活用計画はいつ完成するのか。
- 事務局：来年3月を予定している。
- 近辻委員：関連して、私見であるが、東伏見に縄文ミュージアムがあるとよい、ということについて、審議会前委員の石井(則)委員の想いも聞いていたので述べたい。下野谷遺跡保存活用計画策定懇談会の方でも考えを聞いていただきたい。博物館を考える上では、市域への還元を考えるのはもとより、もっと大きな構想があってもいいと思う。
一部の市民の方々には、郷土資料館と縄文センターの両方を兼ね備える考えもあるようだが、私としては、郷土博物館とは別にし、縄文に特化するとよいと考えている。
- 高橋委員：土に埋もれていて見えないものに関して、模型で復元しヴィジュアル化するなど、内容が充実した整備が進んでいる。さらに、今まではその遺跡の

特徴だけでやっていたのが、他の遺跡との連携として、他の展示物を借用し、展示することなども考えられる。その意味では、全体を幅広く網羅したのもよいのではないか。

(2) 文化財事業実施報告

○鈴木会長：事務局から説明をお願いします。

○事務局：(資料4・資料5に沿って説明)

・埋蔵文化財調査

ネキリという敷地を分ける溝が検出されたが、大きな本調査に至るものはなかった。

・文化財事業

下野谷遺跡の指定地が追加されたので、リーフレットの改訂をした。

秋の屋敷林企画は、民族学博物館の展示も含めると8回続いている。

郷土資料室での特別展は、写真ボランティアさんの協力で行っている。

東伏見小学校の郷土クラブでは、縄文服を作り、縄文の森の秋まつりでは縄文ファッションショーを行った。

下野谷遺跡出張授業は、これで今年度は市内全中学校が終了した。

小学校の社会科見学は、12月～2月になると増えてくる。

○近辻委員：今日から3日間、東伏見小学校で児童の制作した土器展示があるので、行ってみたいと考えている。

4. その他

○鈴木会長：全体を通して何かあるか。

○事務局：次回の会議は2月9日(金)または2月16日(金)の午前ではどうか。

○石井委員：16日は予定がある。

○事務局：本日欠席の委員にも確認し、2月9日(金)で調整したい。

5. 閉会

○鈴木会長：以上をもって、平成29年度第3回会議を閉会する。